

市民と図書館で書店を支える！

～市民の熱意をバックアップする図書館～

市立留萌図書館(北海道留萌市)

URL: <https://ilisosd001.apsel.jp/rumoi/wopc/pc/pages/TopPage.jsp>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

平成22年12月に市内唯一の書店が閉店したため、翌23年春から図書館利用者でもある市民グループが書店の誘致運動を開始した。精力的な活動と熱意が伝わり、同年夏「留萌ブックセンターby三省堂書店」が出店。以降、図書館と市民グループとの連携により、書店の各種企画、提案、開催に協力し、市民の読書活動を守り続けている。

取組詳細

■ 市民グループによる書店誘致と、図書館と連携した活動体制づくり

図書館は平成21年度から指定管理者としてNPO法人留萌スポーツ協会が運営している。図書館利用者でもあった本好きの主婦らが、市内に書店がなくなったことを憂慮し図書館に相談した際に、図書館長は「買ってもよし。借りてもよし。とにかく本を読む市民を増やしたい。」と独自支援を表明。そのことを受けた主婦らは「三省堂書店を留萌に呼び隊」を結成した。

書店誘致の活動は、メンバーズカード会員を募る取組が奏功し、人口30万人に1店という目安で出店している三省堂書店が2万人規模の留萌市に開店することとなった。書店開店後、同グループは「三省堂書店を応援し隊」と改名し、引き続き「応援し隊」と図書館が車の両輪となり、書店経営を安定させるための事業やPR活動に取り組んでいる。

書店誘致が実現してから13年たつが、市民グループの毎月の「作戦会議」は図書館会議室で行われ、館長はアドバイザー的存在として会議に参加し、書店に足を運ぶきっかけづくりの催しなど、現在も様々な企画を考え、実行している。

■ 図書館・書店・市民グループが連携した取組

図書館が書店から購入した本に保護目的の透明フィルムシートを貼る作業は、図書館司書の指導のもと「応援し隊」が図書館で行っている(=写真上=)。

また、子どもたちの読書の機会を促進しようと、書店、図書館どちらに足を運んでもスタンプがもらえる「おたのしみカード」を作り(=写真下=)、押印10個で景品がもらえる企画も考案し、小学生に好評である。

そのほかにも、3年前の書店開店10周年に「応援し隊」が留萌の名所やおはなし会で読んだ絵本などを取り上げ手作りして話題を呼んだ「留萌おはなし絵本カルタ」の制作場所を図書館が提供したり、「応援し隊」が書店内で定期的開催している「おはなし会」の周知ポスターの作成を手伝ったり、書店の周年行事開催時に図書館がイベント TENT を貸し出したりするなど、図書館・「応援し隊」・書店3者が可能な限り連携・サポートをし合い、市民の読書活動を支えている。



「応援し隊」によるフィルム貼り



書店と共通のスタンプカード

基本データ
(数値は令和5年現在)

住所
北海道留萌市住之江町2丁目1
人口
(図書館が所在する市町村)
1.9万人
職員数(うち有資格者数)
7人(3人)
蔵書数
約9.1万冊
※住所は本館データ

取組の成果と今後

・人口減少が続く中、書店経営は厳しさを増しているが、市民向けの様々な活動を通して書店の認知度が上がり、固定ファンも増えている。

・「おたのしみカード」は子どもたちに人気で、書店、図書館それぞれ、本を買わない、借りない子も訪れ「本のある空間」に親しむ環境が育まれている。

・図書館と「応援し隊」の連携支援は、店長や書店員の負担軽減にもつながっているため今後も活動を継続していきたい。